

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	第3871000224号		
法人名	社会福祉法人 愛信会		
事業所名	グループホーム森の園		
所在地	愛媛県伊予市森甲440-1 (電話) 089-982-7474		
管理者	柳澤勘一郎		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 9 月 20 日	評価確定日	平成 19 年 11 月 12 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 2 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 人, 常勤換算 14 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 31 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	5 名	要介護 2	1 名
要介護 3	10 名	要介護 4	2 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 81 歳	最低 58 歳	最高 92 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然豊かな田園の中にあり、近くに海が見える。同建物内に特養等がある併設型のホームである。必要に応じて施設内の豊富な設備の利用が可能である。ホーム内に看護師がいることや施設内に医療系の職員が多く配置され協力体制ができていることは、初期対応もスムーズに行なわれ、利用者の身体的負担の軽減、家族やホームの介護職員の医療面の安心に繋がっている。食事制限を必要とする利用者には、施設の管理栄養士の専門的な食事提供が行なわれ、病態に応じた適切な食事面の支援ができる体制がある。職員の年齢・性別構成はバランスよく、お

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

外部評価の結果はミーティングで話し合われ、利用者一人ひとりの思いや生活歴の記録化、申し送りの徹底方法などについて改善が行なわれるなど、改善に向けた取り組みを積極的に行なっている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

管理者や職員は自己評価の意味を普段の仕事の進め方や事業所のあり方などを見直す機会と認識し、自己評価に前向きに取り組んでいる。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議は平成19年7月に第1回目の会合が持たれ始まったばかりである。次回は同年10月開催予定で、今後は定期的な開催を計画している。ホームとして家族や地域住民に多く参加してもらえるように開催方法などさらに検討している。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

職員は面会時などに家族から要望や意見などを積極的に聞くように努めている。意見や要望はその都度全員で話し合い、運営に反映させている。重要事項説明書にホーム内の苦情相談窓口や公的窓口について電話番号を併記し紹介している。また、介護相談員も受け入れている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

自治会の行事参加や施設行事案内など地域とのかかわりは法人全体の中で行なわれている。独自では、地域の保育園や幼稚園を定期的に訪問することや小学生の訪問など子どもたちとの交流の機会を設けている。さらに、地域住民とのつきあいの中から利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らされたいよう認知症ケアの独自性を意識し、ホームとしての取り組みを期待する。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム森の園

(ユニット名) グループホーム森の園Aユニット

記入者(管理者)
氏名 柳沢 勘一郎

評価完了日 平成 19 年 8 月 25 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 施設全体の理念はあるが、ホーム独自のものは無い。 (外部評価) 施設全体の基本理念をホームの運営理念としている。それは、対人援助サービスに従事するものの心構えとなるものである。地域密着型サービスの中では利用者や職員が共に暮らす「普通の生活」が施設ケアサービス以上に求められている。また、ユニットにも特色が出てきており、各ユニットの特徴を活かした具体的方針も必要になってきている。	※	施設全体の基本理念を理念としつつも、さらにその理念を掘り下げ認知症ケアの社会的役割を認識し、より身近な言葉で具体的な方針や目標を設定する取り組みを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝礼や各会合にて皆で唱和することで意識しながら日々取り組んでいる。 (外部評価) 朝礼や各会合時に全員で理念を唱和することが理念を共有する一つの機会となっている。また、日誌に理念をファイルし、見ながら日誌を書くようになっている。管理者は日々の会話の中でも理念に基づいたケアサービスのあり方を話題にし、職員と実践に向けた取り組みを行っている。	※	日々の業務の中で常に意識しながら取り組んでいる。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 見学や、入所の際には説明している。	※	施設全体の取り組みとして理解を深めるようになってきたが、今後は運営推進会議等活用し取り組んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所には民家が少ないが散歩中に会ったり、洗濯物を干す際や、畑に出た際に挨拶や、アドバイスを頂いている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 周辺地域の各保育所、幼稚園等を定期的に順番に訪問させていただいたり、行事ごとへの参加、また、納涼祭をはじめとする各施設行事へのお誘い、ホームへの訪問を積極的にして頂いている。	※	施設内行事を利用し交流に努める。
			(外部評価) 自治会の行事参加や施設行事案内など地域との関わりは法人全体の中で行なわれている。独自では、地域の保育園や幼稚園を定期的に訪問することや小学生の訪問など子どもたちとの交流の機会を設けている。近所に民家が少ない立地的条件もあり、地域住民の日常的なホーム訪問はあまりない。	※	運営推進会議の中で、地域とホームとの関わり必要性を望む発言があった。さらに地域住民とのつきあいの中で利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう認知症ケアの独自性を意識した啓発に取り組むことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 今の所、特にしておらず。	※	今後行事にあわせて施設内見学等の案内をしてみる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を行うことで、改善点がより発見しやすく迅速に対応している。		
			(外部評価) 管理者や職員は自己評価の意味を普段の仕事の進め方やホームのあり方などを見直す機会と認識し、自己評価に前向きに取り組んでいる。前回の外部評価の結果はミーティングで話し合わせ、利用者一人ひとりの思いや生活歴の記録化、申し送りの徹底方法など改善に向け取り組みを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) まだ一回の開催で、あまり意見等はなく、主旨の説明に費やし、互いの交流を深めることにとどまっている。	※	今後さらに交流を深める。
			(外部評価) 運営推進会議は平成19年7月に第1回目の会合が持たれ、始まったばかりである。次回は同年10月開催予定で、今後は定期的な開催を計画している。家族や地域住民に多く参加してもらえるように開催方法などさらに検討している。	※	回を重ねる中で、事業所の現状報告、取り組み内容、取組みたいことや協力を仰ぎたいことなどを明確に伝え、参加メンバーからも要望、意見を受け、双方向的な会議となるよう取り組むことを期待する。また、参加できない家族にも会議の内容を報告し、共有が図れる取り組みを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 伊予市グループホーム連絡協議会が定期的に行われており、管理者をはじめ必ず他職員も数名ではあるが参加し意見交換を行っている。		
			(外部評価) 市担当課主催の連絡協議会に定期的に参加し、意見交換を行なっている。また、普段から電話で話し合う機会もあり、相談しやすい関係がつけられている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 外部の研修に参加し学ぶ機会は持っているが今の所当ホームでは該当者がおらず、活用例はない。	※	管理者等数名の理解ではなく、相談員等にも理解を促すよう指導しておく。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部の研修に参加し定期的に学びながら確認している。職員間で注意もしており、施設施設長よりもいつも指導いただいている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に書面に基づき口頭で説明を行い、理解していただいた上で同意書をとっている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員の方からも情報は頂くようにし、日々の会話の中でも可能な限りそのような様子が見えた場合には特に寄り添い傾聴するようにしている。カンファレンスはもちろんだが適宜、職員との意思疎通を図るように努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族の面会時、病院受診の際などに口頭、書面を通じて状況報告を行っており、緊急時や、相談事も適宜電話連絡にて行なっている。 (外部評価) 家族の面会時に、行事などの写真と共に利用者の暮らしぶりを報告し、健康状態は受診時に口頭で伝えると共に書類にまとめ情報提供している。変化や課題があった時はその都度家族の思いに配慮しつつ、電話連絡で状況報告し、連携を図っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホーム内でも受け付けているが、施設として苦情窓口を設けている。 (外部評価) 職員は面会時に要望など積極的に聞くよう努めている。意見や要望はその都度全員で話し合い、運営に反映させている。重要事項説明書にホーム内の苦情相談窓口や公的窓口を電話番号を併記し紹介している。また、介護相談員も受け入れている。玄関に意見箱を設置しているが、家族は口頭で伝えてくれる。	※	現在は、直接受けた苦情については都度話し合いの場を設け皆で解決するようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングや業務の中で意見や提案を聞く機会を設け反映できるようにしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要時には勤務の調整は行っている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 変更時には、個々のかかわり方等引継ぎを行ったり利用者へ負担、不安を与えないよう配慮している。又、施設内移動の際にはボランティアとして2、3日であるが自身の休日を利用し、早く馴染めるように勤める傾向が施設としてあり。 (外部評価) 施設内の異動は極力抑える配慮がされている。代わる場合は、新入職員と利用者が早期に信頼関係ができるように、利用者一人ひとりの関わり方のポイントや生活歴などを引き継ぐようにしている。職員交代により関わり方に余り差が出ないように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修等の情報は職員間で共有し、積極的に参加を促進している。 (外部評価) 運営者は研修の必要性を認識している。必要に応じ、業務命令で職員を受講させている。また、研修会開催情報を提供し、職員の受講希望に応じて勤務調整し、積極的に研修参加を促進している。受講者はミーティングで研修内容を報告し、全員が内容を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 伊予市グループホーム連絡協議会が定期的に行われており、管理者をはじめ必ず他職員も数名ではあるが参加し意見交換を行っている。 (外部評価) 市グループホーム連絡協議会に加入している。定期的に行われる会合に管理者はじめ職員4～5名が毎回参加し、グループワークを行ない意見交換している。その中で、管理者は「家族とのかかわり方」について発表を行なうなど、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 勤務希望の受け入れや、無理のない勤務体制であり相談しやすい雰囲気作りに努めている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 年に2回、職員個々で自己評価を行い目標、実績等を話し合う機会がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用開始までに当然であるが、本人とお会いしお話しを聞くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ゆっくりお話しする時間を作り、お話しを聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 適切なサービスが受けられる様、そのときの状態の把握に努めアドバイスする様にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを始めるために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 見学に来ていただいたり、本人が納得できるよう説明の工夫を行っている。 (外部評価) 入居希望者には家族と共に見学に来てもらい、事業所の雰囲気を感じてもらうと共にゆっくり話を聞くようにしている。やむを得ずすぐ利用になった場合、職員は常に寄り添い、今までの暮らし方のペースに沿うよう支援している。また、利用者が居室を自分の部屋として早期に理解してもらうような支援にも努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 希望や趣向を敏感に感じ取れるよう、ゆっくりと会話を交えながら、行事ごとはもちろん日々の介護、生活を送って頂いている。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりの持ち味をよく把握している。野菜づくりや昔からの行事などを教えてもらったり、男性の利用者には食材の買い物荷物の運びを手伝ってもらっている。管理者はウィットに富んだ会話をする利用者には会話を引き出す声かけをし、そのしゃれた返答にまわりの者から笑いがおこるなど、利用者の個性を活かした場面づくりを心がけている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 少しの変化でも連絡するようにし、理解しやすいよう説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 定期的な機関紙の送付、年賀状等で近況報告したり、面会時にも同様に新しい情報をご連絡している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご親戚やご兄弟ら面会時等に情報が取れた方には、年賀状、暑中見舞い等は出しているがその程度。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 相性や、レベルに応じて座席を決めている。定期的な行事通じて全体的な交流も深めて頂いている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院時には、管理者問わずお見舞いに行かせて頂いている。また、退所後お亡くなりになられた際にも葬儀には必ず行かせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で希望を汲み取る努力をしている。また本人本位でサービス提供を極力するよう努力している。 (外部評価) 利用者との日々の関わりの中で聞き取ったり、本人の言葉の中から見つけて汲み取っていくなど、思いや暮らし方の意向の把握に努めている。職員各々が聞き知った生活歴や意向はセンター方式のシートを利用しまとめ記録化している。それを新入職員が共有することで、早期に利用者との馴染みの関係を築くことができている。	※	急がず時間がかかってもいろいろな場面で把握に努めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時のアセスメントや、ご家族、利用者とのコミュニケーションを通じ把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 些細な変化も見逃さないようにし、記録に取り、ケアプラン等に生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) チームとしてケアを行ううえでの課題を解決する為関わる職員、ご家族については事前、事後になる際もあるが意見交換を行い合意を得ている。 (外部評価) 家族には面会時、意見や要望を聞いている。介護計画作成にあたり、参加できない職員はノートに意見などをまとめ伝える手段をとるなど全職員の気づきや日々のケース記録などを基にカンファレンスし、介護計画を作成している。介護計画は、身体的症状、周辺症状にもおよんだ利用者一人ひとりの具体的な計画になっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 計画に実施期間を明示して、都度見直しをおこなうことはもとより、状態の変化に応じた随時の見直しを図っている。 (外部評価) 介護計画は実施期間を設定し、期間が終了する前に見直しを行なっている。目標項目を日々のケアサービスの中でモニタリングし、一か月ごとに評価し、カンファレンスを行なっている。利用者の状態が変化した時には随時見直しを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の介護や、介護計画に活かせるよう、個々の様子や変化を具体的に記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入浴時のシャワーチェアやレクリエーションに使用するカラオケをはじめ、その他を共有し、看護師にも日々協力して頂いている。 (外部評価) 盆・正月などの外泊支援や、緊急時の通院介助など利用者や家族の要望により柔軟に対応しているが、開設5年を経過し、経年変化による身体状態の低下や利用者からの希望の表出が少なくなってきたり、一人ひとりに応じた個別性のある支援が求められる時期にきている。	※	利用者や家族の状況の変化に伴いその暮らし方を支えるための臨機応変かつ柔軟なサービスの必要性が増えてきており、先々起こることを想定して、さらに利用者一人ひとりに対し、個別性のあるサービスに取り組むことを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 利用者の生活や広がりのために、周辺地域の各機関より協力を得られるよう働きかけを行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 退去希望時には支援をしているが、他は今の所していない		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議等で意見を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。 (外部評価) 利用者や家族の希望で入居前からのかかりつけ医や、入居時に家族などの同意を得てホームの嘱託医など、納得の得られた受診の支援ができています。家族同行の受診の際には、職員は日々の様子や症状など口頭説明すると共に書類にまとめ、家族に情報提供し、適切な医療を受けられるよう支援している。週1回協力医療機関の往診があり、相談体制も整っている。	※	受診等の問題もある事から嘱託医を進めていきたい。嘱託医にも理解して頂くようにしていく。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の変化については専門医を受診できるよう支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 施設内看護職員と連携を図り、日常の健康管理につなげている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 見舞いを含めた訪問で相談に努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 現在の体制では受け入れていない。 (外部評価) 運営方針として、重度や終末期の人を現時点では対象にしているが、利用者の状態の変化があった場合は家族、かかりつけ医と早い時期から話し合いの機会をつくり、事業所に対応できる支援方法などを話し合い意思の統一を図ることに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 検討はしているが特に進んでいない		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 互いの情報交換を適宜行い、サービスの低下および利用者の生活の質を落とさないよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個々の人格を尊重し、声かけや対応を行っている。記録等外部の方に見ていただく場合は確認をとり、必要時には同意書を頂いている。 (外部評価) 職員は耳元で穏やかな口調の言葉かけを行なうなど、利用者を尊重する姿勢が感じられる。個人情報に関する書類は職員室の戸のある書庫に保管している。外部者に記録書類を見せる際には、必要に応じ家族などに同意を得るようにしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 起床時の整容支援や施設に月に2回来る、理美容のサービスを支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 自立支援を図るため、極力見守り等で対応し、出来る事は一緒に行くようにしている。特に決め事は作らないようにしている。 (外部評価) 一日の過ごし方の決め事をほとんど作っておらず、利用者一人ひとりの入居前の暮らし方のペースで過ごせるように、職員が利用者のペースに合わせている。基本的な生活のリズムづくりに配慮しながらも、ゆっくり食事をする、好きな時に入浴するなど利用者の自由な動きを優先している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 化粧を試みたり毎日ではないが行事のときなどは特に整えている。本人らの希望は少なく理美容については月に2度ある訪問の方に任せている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) テーブル拭きや、食後の片付けには食器洗い、拭きを手伝っていただいている。また、味付けや簡単な調理には参加していただいている。 (外部評価) 食材の買出し、食材の準備、テーブル拭きや食器洗いなど利用者の好みや力に応じ一緒にするようにしている。また、食堂でテレビを見たり、おしゃべりをしながら食事ができるのを待つ方など楽しみ方は各々である。職員は、自力で口から食べることの支援に努めており、食べる姿勢を整えるため背当てや踏み台を使うなど工夫している。	※	昼食事前に嚥下体操に取り組んでいます。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 個々の好みの把握に努め状況にあわせた支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 個々の排泄パターンの把握に努めオムツ内への失禁を減らしトイレでの排泄、自立へ取り組んでいる。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ある程度、入浴パターンが理解できており希望、タイミングにあわせた支援を行っている。 (外部評価) 入浴は午前から午後にかけて利用者の希望の日・時間に行なっている。利用者の状態により、足浴やシャワー浴などでも対応している。入居前からの習慣であまり入浴を好まない利用者もいるが、機嫌のよい時に声かけし、少なくとも3日に1回は入浴できるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 睡眠パターンの把握に努め、生活のリズム作りの支援をし安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 日常的な家事のお手伝いをして頂き、季節感のある行事や、食事などで楽しんで頂いている。 (外部評価) 掃除、ゴミ捨てなどの家事、畑仕事、洗濯など、それぞれ自分の役割としている利用者とその意欲が継続できるよう支援している。週1回のお菓子づくり、時代劇や歌番組、カラオケ、洗濯物たたみ、食材の買出しの手伝いなど日常生活の中でできそうなことを声かけし、利用者の出番や楽しみ事の場面づくりを行なっている。	※	さらに感謝の気持ちを持ち、表すようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者自身で管理は難しく、施設で預かり希望があった際には使えるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 近隣への散歩程度なら行っているが、遠出の場合には事前に計画を立ててから行っている。又、2日に一度の買い物の日には利用者の方と必ず出かけるようにしている。 (外部評価) 近隣や広い敷地内の散歩、庭でおやつを食べる、2日に1回の買い物に利用者を誘うなど、なるべく戸外に出る機会を設けている。施設併設型の利点から大型車両など利用者の身体状況に配慮した移動方法が容易であり、多人数でかけることができ、楽しみが共有できる。	※	健康状態に留意しながら積極的に支援していく。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 定期的な行事計画の中で利用者の希望を汲み取り外出時に取り入れている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば必ず支援し、以外においても必要と感じた場合には支援させて頂いている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 訪問された方には希望の場所で過ごしていただき、特に時間は設けず大きさではあるが24時間受け入れている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) マニュアルを作成し、理解すると共に皆で会議等の中でカンファレンスを行いながら取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 居室については鍵を掛けたことはなく、玄関は夜間以外自由に出入りできるようにしている。 (外部評価) 玄関は自動ドアで夜間の防犯目的以外では施錠しておらず、職員の見守りや一緒についていくことで自由な出入りができている。センサー感知でチャイムが鳴るようになっている。利用者が洗濯物干しや取り込みに入りますが、チャイム音が利用者の戸惑いにはなっていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中はフロアで過ごされること多く、又夜間も職員はフロアで待機するようにし様子を把握しながら安全には配慮している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 特に危険なものはずすようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々心がけてはいるが、転倒や誤薬については完全には防げておらず。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) マニュアルを作成し、定期的に初期対応の講習を、内部、外部通じて学んでいる。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアルを作成し、定期的に消防署の指導の下訓練を行っている。 (外部評価) 施設全体で災害に備えた自衛消防隊を編成している。施設全体で防火・消防訓練を年2回定期的に実施し、消防署とも連携し協力体制がとれている。夜間を想定し、利用者を含めた総合訓練も行なっており、訓練を繰り返すことで避難場所や避難誘導方法を確認できている。週1回防災設備点検を行なうなど積極的に防災に取り組んでいる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 様子の変化等で、必要と感じた場合には必ず相談し、互いに納得をしたうえで介護を行うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 速やかに、他職員、看護師、医師に連絡し、記録にて引継ぎも行っている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬についてファイルを作成し、個々の一覧を確認している。また一箇所で保管するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録にて状況を把握することに努めているが、薬の使用が主で運動等での取り組みはあまり出来ていない。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを促しており、自立の困難な方には介助するようにしている。夜間は預からせていただき、洗浄し清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取量、調理形態に配慮し食事を提供している。こちらでは対応しきれない場合には施設食事部より指導頂いている。 (外部評価) 献立は施設の管理栄養士に確認してもらい、必要に応じてアドバイスを受けられるため、栄養バランスに配慮されている。摂取状況をチェック表に記録している。水分補給は意識して機会を設けており、水分を摂る習慣があまりない利用者にも様々な工夫により必要量の確保に努めている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染マニュアルを作成し、必要な対応を行うと共に、家族を含めた外部からの訪問者についても手洗い等呼び掛けている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) マニュアルを作成し衛生管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ホーム専用の入り口もあるが、総合福祉施設となっている為難しい。	※	ハード面ではなくソフト面でカバーしていくことに今後は取り組みたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 四季折々の花を生けたり、飾り付けを行っている。 (外部評価) 食堂兼居間は内庭から射し込む自然光と照明器具の明かりで心地よい。居間から内庭の草木が一望でき、居ながらにして四季の移り変わりを感じることができる。職員は適宜戸を開け、外気を取り込んでいる。絵画や利用者の作品を装飾としてバランスよく玄関や壁に飾り、落ち着いたくつろげる共用空間になっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者の相性に考慮し気の合う方たちで過ごせるよう配慮している。ソファやマッサージ機も置いてあり、目は届くものの一人になれる空間も提供している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室については特に使い慣れたものを使用して頂くようご家族にも呼び掛けている。写真等も持ち込んでいただき個々のレベルに合わせた配置に心がけている。 (外部評価) 寝具はベッドまたは畳を持ち込み布団で寝るなど利用者の身体状況や習慣に応じ個別に対応している。タンス、テレビ、鏡台、ぬいぐるみ、家族の写真など馴染みのものや、利用者が描いた絵や行事の写真などを壁に貼るなど思い思いの部屋になっている。入居後も折に触れ家族に協力を依頼している。	※	入所後しばらく経過しても働きかけていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎朝換気している。また温度調節もこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 必要箇所へ手すりの設置、介護用品も使用し自立性を尊重しながら個々の意向に沿った介護に努めている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) コミュニケーションを十分にとり受容と共感で接し安心して生活が送れるよう努めている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 玄関口には花などを植えており、近くには畑を作り利用者の参加を促している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	特に混乱されずに過ごされており、利用者同士も和やかな様子で暮らして頂いている為関わり方の方向は間違っていないと思われる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	利用者も比較的落ち着かれており、職員も合わせることで自然とゆったりと過ごす場面が出来る。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	決め事をほとんど作っておらず利用者のペースを守るようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	スムーズな会話が行え、笑みも多くみられる為。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	お添いすると皆喜ばれている為。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	不安があった場合にはご家族、主治医に連絡し迅速に対応している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご家族等とも相談しながら適宜対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ゆっくり話は聞いているが、話の内容にズレがあると感じる場合があると感じる場合がある為。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに ④ ほとんどない	来ないため。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	まだ一回のみの開催の為。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	和やかに過ごされているから。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	いつも不安、遠慮を感じながら接している為。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者本位で共に生活させて頂きながら、目配り、気配りを怠らずかゆいところに手が届くサービスを心がけています。また、2日に一度の買い物には利用者さんにお手伝い頂き、外出も兼ねホーム以外での日常生活も途切らすことなく送って頂いています。地域交流として学校他地域での運動会への参加、特に幼稚園、保育園児との定期的な交流を続けさせて頂いています。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム森の園

(ユニット名) グループホーム森の園Bユニット

記入者(管理者)
氏名 柳沢 勘一郎

評価完了日 平成 19 年 8 月 27 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 施設全体の理念はあるが、ホーム独自の理念は作っていない。 (外部評価) 施設全体の基本理念をホームの運営理念としている。それは、対人援助サービスに従事するものの心構えとなるものである。地域密着型サービスの中では利用者や職員と共に暮らす「普通の生活」が施設ケアサービス以上に求められている。また、ユニットにも特色が出てきており、各ユニットの特徴を活かした具体的方針も必要になってきている。	※	施設全体の基本理念を理念としつつも、さらにその理念を掘り下げ認知症ケアの社会的役割を認識し、より身近な言葉で具体的な方針や目標を設定する取組みを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 朝礼や各会合にて皆で唱和することで意識しながら日々取り組んでいる。 (外部評価) 朝礼や各会合時に全員で理念を唱和することが理念を共有する一つの機会となっている。また、日誌に理念をファイルし、見ながら日誌を書くようになっていく。管理者は日々の会話の中でも理念に基づいたケアサービスのあり方を話題にし、職員と実践に向けた取組みを行っている。	※	日々の業務の中で常に意識しながら取り組んでいる。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	(自己評価) 今までは、施設全体での取組みであったが、今後は運営推進会議等活用し、取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 洗濯物を干したり、畑に行った際等、出会った方には挨拶をしたり、野菜作りのアドバイスをしたりして頂いたりしている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 幼稚園、保育所、小学校との交流、納涼祭へのお誘い等で地域の方との交流を図っている。	※	施設内行事を利用し交流に努める。
			(外部評価) 自治会の行事参加や施設行事案内など地域との関わりは法人全体の中で行なわれている。独自では、地域の保育園や幼稚園を定期的に訪問することや小学生の訪問など子どもたちとの交流の機会を設けている。近所に民家が少ない立地的条件もあり、地域住民の日常的なホーム訪問はあまりない。	※	運営推進会議の中で、地域とホームとの関わり必要性を望む発言があった。さらに地域住民とのつきあいの中で利用者一人ひとりが地域とつながりながら暮らし続けられるよう認知症ケアの独自性を意識した啓発に取り組むことを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 今の所、特にしておらず。	※	今後行事にあわせて施設内見学等の案内を試みる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 内部評価、外部評価を良い機会に、改善できる点は直ぐ改善していくようにしている。		
			(外部評価) 管理者や職員は自己評価の意味を普段の仕事の進め方やホームのあり方などを見直す機会と認識し、自己評価に前向きに取り組んでいる。前回の外部評価の結果はミーティングで話し合われ、利用者一人ひとりの思いや生活歴の記録化、申し送りの徹底方法など改善に向け取り組みを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) まだ一回の開催で、あまり意見等はなく、主旨の説明に費やし、互いの交流を深めることにとどまっている。	※	今後さらに交流を深める。
			(外部評価) 運営推進会議は平成19年7月に第1回目の会合が持たれ、始まったばかりである。次回は同年10月開催予定で、今後は定期的な開催を計画している。家族や地域住民に多く参加してもらえるように開催方法などさらに検討している。	※	回を重ねる中で、事業所の現状報告、取り組み内容、取組みたいことや協力を仰ぎたいことなどを明確に伝え、参加メンバーからも要望、意見を受け、双方向的な会議となるよう取り組むことを期待する。また、参加できない家族にも会議の内容を報告し、共有が図れる取り組みを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 伊予市グループホーム連絡協議会が定期的に行われており、管理者をはじめ必ず他職員も数名ではあるが参加し意見交換を行っている。		
			(外部評価) 市担当課主催の連絡協議会に定期的に参加し、意見交換を行なっている。また、普段から電話で話し合う機会もあり、相談しやすい関係がつけられている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等に参加し理解は深めているが、活用はしていない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し、学ぶと共に、職員同士声を掛け合い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ゆっくりと話せる場所や時間をとるようにしている。内容について必ず同意を取るようにしている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時には日々の様子を伝えている。状態の変化があった時等は、電話連絡を行っている。 (外部評価) 家族の面会時に、行事などの写真と共に利用者の暮らしぶりを報告し、健康状態は受診時に口頭で伝えると共に書類にまとめ情報提供している。変化や課題があった時はその都度家族の思いに配慮しつつ、電話連絡で状況報告し、連携を図っている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ホーム内でも受け付けているが、施設として苦情窓口を設けている。 (外部評価) 職員は面会時に要望など積極的に聞くよう努めている。意見や要望はその都度全員で話し合い、運営に反映させている。重要事項説明書にホーム内の苦情相談窓口や公的窓口を電話番号を併記し紹介している。また、介護相談員も受け入れている。玄関に意見箱を設置しているが、家族は口頭で伝えてくれる。	※	現在は、直接受けた苦情については都度話し合いの場を設け皆で解決するようにしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティングや日々の業務の中で聞き、適宜話し合いを行っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 必要時には、勤務変更し、対応している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 新しく入られた職員が、早く利用者に馴染めるように配慮している。 (外部評価) 施設内の異動は極力抑える配慮がされている。代わる場合は、新入職員と利用者が早期に信頼関係ができるように、利用者一人ひとりの関わり方のポイントや生活歴などを引き継ぐようにしている。職員交代により関わり方に余り差が出ないように工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) プリセプター制で、新人職員の教育を行うとともに、施設内外の研修の参加も勧めている。 (外部評価) 運営者は研修の必要性を認識している。必要に応じ、業務命令で職員を受講させている。また、研修会開催情報を提供し、職員の受講希望に応じて勤務調整し、積極的に研修参加を促進している。受講者はミーティングで研修内容を報告し、全員が内容を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 伊予市グループホーム連絡協議会が定期的に行われており、管理者をはじめ必ず他職員も数名ではあるが参加し意見交換を行っている。 (外部評価) 市グループホーム連絡協議会に加入している。定期的に行われる会合に管理者はじめ職員4～5名が毎回参加し、グループワークを行ない意見交換している。その中で、管理者は「家族とのかかわり方」について発表を行なうなど、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員一人ひとりの思いを表出しやすい雰囲気を作り、勤務も希望を聞いたり、負担の少ない組み方をするようにしている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 年に2回、本人の仕事に対する自己評価や目標等聞き、把握し、適宜助言を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 利用開始までに、本人とお会いしてお話を聞き、把握するようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ゆっくりお話しする時間を作り、お話を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 適切なサービスが受けられるよう、その時の状態の把握に努め、アドバイスするようにしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 施設見学に来て頂いたり、本人が納得できる説明の工夫を行ったりしている。 (外部評価) 入居希望者には家族と共に見学に来てもらい、事業所の雰囲気を感じてもらおうと共にゆっくり話を聞くようにしている。やむを得ずすぐ利用になった場合、職員は常に寄り添い、今までの暮らし方のペースに沿うよう支援している。また、利用者が居室を自分の部屋として早期に理解してもらうような支援にも努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 野菜作りや昔からの行事、料理等教えて頂きながら、行っている。 (外部評価) 職員は利用者一人ひとりの持ち味をよく把握している。野菜づくりや昔からの行事などを教えてもらったり、男性の利用者には食材の買い物の荷物運びを手伝ってもらっている。管理者はウィットに富んだ会話をする利用者に会話を引き出す声かけをし、そのしゃれた返答にまわりの者から笑いがおこるなど、利用者の個性を活かした場面づくりを心がけている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 情報を共有しながら、必要時には話し合いを行い、協力して頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 定期的な機関紙の送付、年賀状等で近況報告したり、面会時にも同様に新しい情報をご連絡している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご親戚やご兄弟ら面会時等に情報が取れた方には、年賀状、暑中見舞い等は出しているがその程度。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 相性や、レベルに応じて座席を決めている。定期的な行事通じて全体的な交流も深めて頂いている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院時には、管理者問わずお見舞いに行かせて頂いている。また、退所後お亡くなりになられた際にも葬儀には必ず行かせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望を聞くようにしているが、思いの表出が難しいことが多い。本人本位に検討するようにはしている。 (外部評価) 利用者との日々の関わりの中で聞き取ったり、本人の言葉の中から見つけて汲み取っていくなど、思いや暮らし方の意向の把握に努めている。職員各々が聞き知った生活歴や意向はセンター方式のシートを利用しまとめ記録化している。それを新入職員が共有することで、早期に利用者との馴染みの関係を築くことができている。	※	急がず時間がかかってもいろいろな場面で把握に努めていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時にご家族より情報提供して頂き、把握するようにしている。	※	入所後に得た情報もきちんとまとめ、情報が共有できるように努める。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 日々一人ひとりの状態の観察を行い、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の来所持に、介護計画の相談や希望を聞くようにしている。職員全員の意見やアイデアを聞き、計画に生かすようにしている。 <hr/> (外部評価) 家族には面会時、意見や要望を聞いている。介護計画作成にあたり、参加できない職員はノートに意見などをまとめ伝える手段をとるなど全職員の気づきや日々のケース記録などを基にカンファレンスし、介護計画を作成している。介護計画は、身体的症状、周辺症状にもおよんだ利用者一人ひとりの具体的な計画になっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3カ月毎に計画を見直している。状況の変化があった場合はその都度話し合い、変更するようにしている。 <hr/> (外部評価) 介護計画は実施期間を設定し、期間が終了する前に見直しを行なっている。目標項目を日々のケアサービスの中でモニタリングし、一か月ごとに評価し、カンファレンスを行なっている。利用者の状態が変化した時には随時見直しを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日誌、介護記録、チェック表を活用しながら、情報を共有し、ケアプランの実践を把握するようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 入浴時のシャワーチェアやレクリエーションに使用するカラオケをはじめ、その他を共有し、看護師にも日々協力して頂いている。 (外部評価) 盆・正月などの外泊支援や、緊急時の通院介助など利用者や家族の要望により柔軟に対応しているが、開設5年を経過し、経年変化による身体状態の低下や利用者からの希望の表出が少なくなってきており、一人ひとりに応じた個別性のある支援が求められる時期にきている。	※	利用者や家族の状況の変化に伴いその暮らし方を支えるための臨機応変かつ柔軟なサービスの必要性が増えてきており、先々起こることを想定して、さらに利用者一人ひとりに対し、個別性のあるサービスに取り組むことを期待する。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 利用者の生活や広がりのために、周辺地域の各機関より協力を得られるよう働きかけを行っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 退去希望時には支援をしているが、他は今の所していない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 運営推進会議等で意見を頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入所時に、かかりつけ医については、家族の希望を聞き決めている。嘱託医以外の受診時は、必要時情報提供するようにしている。 (外部評価) 利用者や家族の希望で入居前からのかかりつけ医や、入居時に家族などの同意を得てホームの嘱託医など、納得の得られた受診の支援ができています。家族同行の受診の際には、職員は日々の様子や症状など口頭説明すると共に書類にまとめ、家族に情報提供し、適切な医療を受けられるよう支援している。週1回協力医療機関の往診があり、相談体制も整っている。	※	受診等の問題もある事から嘱託医を進めて行きたい。嘱託医にま理解して頂くようにしていく。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症の症状悪化時には、家族と相談して、専門医を受診し、治療を受けられるよう支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員が利用者を見守り、体調の変化に応じて対応するようにしている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院中は職員が病院に行き、適宜病院関係者と相談を行うようにしている。また、家族とも連絡を取り、話し合いを行うようにしている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 本人の状態に変化があった場合、出来るだけ早めにご家族と話し合い、かかりつけ医にも相談報告するようにしている。また、職員間でも情報を共有している。 (外部評価) 運営方針として、重度や終末期の人を現時点では対象にしているが、利用者の状態の変化があった場合は家族、かかりつけ医と早い時期から話し合いの機会をつくり、事業所で対応できる支援方法などを話し合い意思の統一を図ることに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 出来るだけ住み慣れた環境で、過ごしていただきたいと思うが、当施設で対応できる限界もあり、かかりつけ医と相談しながら支援している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 退所時サマリーを作成すると共に、本人の個別性や注意点については、職員が直接申し送るようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個々の人格を尊重し、声かけや対応を行っている。記録等外部の方に見ていただく場合は確認をとり、必要時には同意書を頂いている。 <hr/> (外部評価) 職員は耳元で穏やかな口調の言葉かけを行なうなど、利用者を尊重する姿勢が感じられる。個人情報に関する書類は職員室の戸のある書庫に保管している。外部者に記録書類を見せる際には、必要に応じ家族などに同意を得るようにしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人が理解できる方法を工夫しながら、説明するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態、状況、希望に合わせた支援を行うように努めている。 (外部評価) 一日の過ごし方の決め事をほとんど作っておらず、利用者一人ひとりの入居前の暮らし方のペースで過ごせるように、職員が利用者のペースに合わせている。基本的な生活のリズムづくりに配慮しながらも、ゆっくり食事をする、好きな時に入浴するなど利用者の自由な動きを優先している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 理美容は、月2回施設への訪問があり利用している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者さんと一緒に食事の準備等することが望ましいが、能力的に難しいことが多い。昼食は職員も同じテーブルで食べコミュニケーションを図ったりしている。 (外部評価) 食材の買出し、食材の準備、テーブル拭きや食器洗いなど利用者の好みや力に応じ一緒にするようにしている。また、食堂でテレビを見たり、おしゃべりをしながら食事ができるのを待つ方など楽しみ方は各々である。職員は、自力で口から食べることの支援に努めており、食べる姿勢を整えるため背当てや踏み台を使うなど工夫している。	※	昼食事前に嚥下体操に取り組んでいます。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 希望する方には、おこずかいで飲み物やおやつを購入し、楽しめるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 利用者の行動を観察し、一人ひとりに応じた誘導や援助を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 毎日午前から午後にかけて、利用者の希望する時や状態の良い時に入浴できるよう支援している。 (外部評価) 入浴は午前から午後にかけて利用者の希望の日・時間に行なっている。利用者の状態により、足浴やシャワー浴などでも対応している。入居前からの習慣であまり入浴を好まない利用者もいるが、機嫌のよい時に声かけし、少なくとも3日に1回は入浴できるよう支援している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の状態に応じて、適宜休息して頂くように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの能力にあった役割をして頂くようにしている。その際コミュニケーションを図り、楽しく行えるようにしている。また、行事や外出等で楽しい時間が過ごせるよう支援している。 (外部評価) 掃除、ゴミ捨てなどの家事、畑仕事、洗濯など、それぞれ自分の役割としている利用者とその意欲が継続できるよう支援している。週1回のお菓子づくり、時代劇や歌番組、カラオケ、洗濯物たたみ、食材の買出しの手伝いなど日常生活の中でできそうなことを声かけし、利用者の出番や楽しみ事の場面づくりを行なっている。	※	さらに感謝の気持ちを持ち、表すようにしていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの金銭管理能力を把握し、管理が難しい方はホームで管理し、本人希望時に使用できるよう支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩の希望があれば一緒に行くようにしている。 (外部評価) 近隣や広い敷地内の散歩、庭でおやつを食べる、2日に1回の買い物に利用者を誘うなど、なるべく戸外に出る機会を設けている。施設併設型の利点から大型車両など利用者の身体状況に配慮した移動方法が容易であり、多人数でかけることができ、楽しみが共有できる。	※	健康状態に留意しながら積極的に支援していく。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 外出の計画を立てて、出掛けている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望時には、電話等できるよう支援している。また、年賀状や暑中見舞いを出す等、支援している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも自由に来て頂けることを説明すると共に、来所していただいた方にはゆっくり過ごしていただくよう声掛けを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束を行わないよう努力はしているが、医師のアドバイスを家族の要望で1名行っている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関の自動ドアは日中出入り自由とし、センサーのチャイムで出入りがわかるようにしている。 (外部評価) 玄関は自動ドアで夜間の防犯目的以外では施錠しておらず、職員の見守りや一緒についていくことで自由な出入りができている。センサー感知でチャイムが鳴るようになっている。利用者が洗濯物干しや取り込みに出入りするが、チャイム音が利用者の戸惑いにはなっていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 居室で過ごされている時間は、適宜訪室し、様子観察している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 本人の状態を観察しながら、身の回りの環境整備を行うようにしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの状態に応じた、事故防止策について、職員間で話し合い取り組んでいる。		


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的には、行えていない。	※	各種講習を開く。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回、施設全体で防災訓練を行っている。 (外部評価) 施設全体で災害に備えた自衛消防隊を編成している。施設全体で防火・消防訓練を年2回定期的に行い、消防署とも連携し協力体制がとれている。夜間を想定し、利用者を含めた総合訓練も行っており、訓練を繰り返すことで避難場所や避難誘導方法を確認できている。週1回防災設備点検を行なうなど積極的に防災に取り組んでいる。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入所時には、入所中起こり得るリスクについて説明するとともに、状態の変化に応じて家族に説明し理解を得るようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) いつもと違う様子の際には、細かい観察を行い、申し送ると共に、必要時には看護師・医師に報告している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者全員の内服薬一覧表をファイルに綴じ、職員室に置きいつでも確認できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の及ぼす環境は理解しているが、予防の工夫はあまり行えておらず、下剤に頼ってしまっている部分がある。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、声掛けや援助を行うようにしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 経口摂取量を日々観察し、一人ひとりに応じた食事形態の工夫等行っている。 (外部評価) 献立は施設の管理栄養士に確認してもらい、必要に応じてアドバイスを受けられるため、栄養バランスに配慮されている。摂取状況をチェック表に記録している。水分補給は意識して機会を設けており、水分を摂る習慣があまりない利用者にも様々な工夫により必要量の確保に努めている。	※	施設食事部を利用し各自の食事形態に合わせていく。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) マニュアルに添って対応している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理については、マニュアルを作成し、感染予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) グループホームの玄関には、花を植えたりベンチを置いたりしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 花や季節のものを飾るようにしている。 (外部評価) 食堂兼居間は内庭から射し込む自然光と照明器具の明かりで心地よい。居間から内庭の草木が一望でき、居ながらにして四季の移り変わりを感じることができる。職員は適宜戸を開け、外気を取り込んでいる。絵画や利用者の作品を装飾としてバランスよく玄関や壁に飾り、落ち着いたくつろげる共用空間になっている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) フロア、玄関、中庭にソファやベンチを置き、自由に過ごせるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所時にご家族に説明し、使い慣れたものやなじみの物を持って来て頂くようにしている。 (外部評価) 寝具はベッドまたは畳を持ち込み布団で寝など利用者の身体状況や習慣に応じ個別に対応している。タンス、テレビ、鏡台、ぬいぐるみ、家族の写真など馴染みのものや、利用者が描いた絵や行事の写真を壁に貼るなど思い思いの部屋になっている。入居後も折に触れ家族に協力を依頼している。	※	入所後しばらく経過しても働きかけていく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 利用者の意見を聞きながら、温度調整を行うと共に、適宜換気も行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーで作られた建物であり、手すり等も設置されている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 部屋の入り口は個人に合わせ工夫を行っている。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 畑に野菜を植えたり、玄関に花を植えたりし、水やり、草引き等一緒に行っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	カンファレンス等でも意見が多く出ており、利用者の思いや意向をを汲んだ様々な手法を試している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	決め事をほとんど作っておらず利用者のペースを守るようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	決め事をほとんど作っておらず利用者のペースを守るようにしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一人ひとり場面場面ではみられるが、全体的な場面から考えるとそうは思えない。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自動ドアでいつでも自由に出ては頂いているが、外出の希望はあまりない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	不安があった場合にはご家族、主治医に連絡し迅速に対応している。本人の理解力不足も目立つようで解消されにくい場合がある為。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ご家族等とも相談しながら適宜対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ゆっくり話は聞いているが、話の内容にズレがあると感じる場合があると感じる場合がある為。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに ④ ほとんどない	来ないため。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ あまり増えていない 4 全くいない	まだ一回のみの開催の為。
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望の把握はしているが、認知症により出来かねることが多々あり利用者にとっては理解できない子が多いと思う為。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	いつも不安、遠慮を感じながら接している為。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者本位で共に生活させて頂きながら、目配り、気配りを怠らずかゆいところに手が届くサービスを心がけています。
また、2日に一度の買い物には利用者さんにお手伝い頂き、外出も兼ねホーム以外での日常生活も途切らすことなく送って頂いています。
地域交流として学校他地域での運動会への参加、特に幼稚園、保育園児との定期的な交流を続けさせて頂いています。